



日本の公認会計士として日本及びインドネシアの大手監査法人勤務を経て、日本の会計税務及び親会社の考え方にも精通しながら、時には日本本社へも出向いてサービス提供。会計税務を中心とした日常的業務のお手伝いから、新規進出や組織再編、M&A など幅広い側面で日系企業を支援。

「インドネシア人 人材活用について（１）」

こんにちは！

今回から複数回で、インドネシア駐在でよく話題になり、最近では日本でも話題になる、「インドネシア人 人材活用について」というテーマでお話しします！

＜日本人との違い＞

日本人との違いと言えば、簡単に以下のような事が言えます。

宗教: イスラム教徒が多いため、豚肉やアルコールを避ける、礼拝の時間を確保するなどの配慮が必要です。ラマダン（断食月）期間中の体調管理にも注意が必要です。

時間感覚: 日本人に比べて時間にルーズな傾向があります。待ち合わせや納期に遅れる場合も、悪意があるわけではなく、文化的な違いからくることが多いです。

上下関係: 年齢や経験を重視する傾向があります。年長者や経験豊富な人には敬意を払い、指示や指導を受け入れる姿勢が見られます。

コミュニケーション: 直接的な表現を避け、遠回しな言い方をすることがあります。空気を読むことや、はっきり言わないことを察することが苦手な場合があります。

集団主義: 個人よりも集団を重視する傾向があります。チームワークを大切にし、仲間意識が強いです。

家族: 家族を非常に大切にするため、家族の事情で仕事に影響が出ることもあります。

人間関係: 仕事よりも人間関係を優先する傾向があります。良好な人間関係を築くことで、仕事へのモチベーションも高まります。

メンツ: 面子を重んじるため、人前で厳しく叱責することは避けましょう。

＜特に気を付けること＞

上記のことから、特にインドネシア人と仕事をする場合に気を付けることは、「時間感覚」と「コミュニケーション」及び「メンツ」になると思います。

「時間感覚」について

インドネシアでは、政府の事業や役所の対応についても、いろいろな事が遅れてしまいます。最初から遅れ

ることを前提にしながらスケジュール作成しているような面があります。更に、スケジュールも作成しない事も多く、作成したとしても期日等を明確にしない面があります。このような環境で生きている人々ですので、やはり日本人とはその「時間感覚」が大きく相違する面があります。

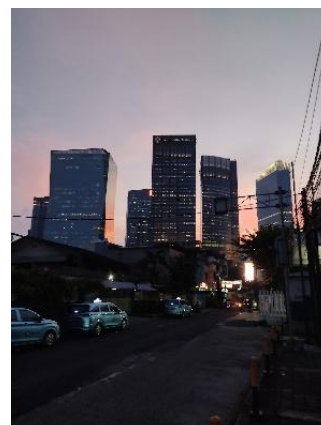
「コミュニケーション」について

インドネシア人と日本人のコミュニケーションは、英語又はインドネシア語又は日本語となると思いますが、言葉の壁は勿論ですがそれ以上に、上記のコミュニケーションに対しての態度や考え方の違いに影響を受けます。つまり、インドネシア人のコミュニケーションは上記のように明確に突き詰めた相互理解を形成することはあまりなく、オブラートに包んだような理解のレベルで終わってしまうことが多いです。良く言えばおおらかなのですが、インドネシア人同士のコミュニケーションでも、結局「あの人は何を言ってるか分からなかった」みたいなことは多いです。

「メンツ」について

インドネシアでは、自分の子供に対しても日本ほど厳しく叱ることがないようです。ですので、日本企業内で上司に厳しく叱られたりすると、人生で初めての経験となり、びっくりしてしまうようです。子育ての時から、やはり日本よりは問題点に対してそこまで厳しく対応しない印象です。

次回以降、上記日本人との相違から生じる難しい面や適切な指示や指導の方法について記載します。



（ローカルが住むエリアから見た中心部の街並み）